

名古屋城外堀のオニバス

中村 肇

名古屋自然史談話会

Worth preserving? *Euryale ferox* in the Nagoya Castle Moat

Hajime NAKAMURA

Nagoya Natural History Society

Correspondence:

Hajime NAKAMURA E-mail: nakamura@tameike.info

はじめに

オニバス *Euryale ferox* は、やや富栄養化した湖沼、ため池、河川などに生育するスイレン科の一年生植物である(角野, 2014)。アジア東部からインドに分布し、日本では本州、四国、九州に約300か所の生育記録があるものの、水域の埋め立てや水質汚濁の進行で各地から消滅が相次ぎ、現在の産地は70か所ほどに減少し(角野, 1994a)、環境省のレッドリストでは絶滅危惧II類に位置付けられている(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編), 2015)。

名古屋市内においては、名古屋市中区(名古屋城外堀)、名古屋市西区(蛇池)、名古屋市北区楠でオニバスが記録されているが(角野, 1994b)、1992年に名古屋

城外堀での記録を最後に確認されておらず(名古屋市, 1993)、名古屋市では絶滅したと考えられていた(名古屋市, 2004)。

ところが、2012年11月、名古屋城外堀北東部のヨシ帯に隣接した場所において、2株のオニバス(図1)が確認され(中村, 2014)、2015年に公表された名古屋市版レッドリストでは絶滅危惧IA類として評価されている(名古屋市, 2015)。

本報では、名古屋城外堀のオニバス記録について、筆者の継続調査等により得られた情報を報告する。

由来の分からぬオニバス

2013年9月29日、筆者は、名古屋城内の御深井丸にある修景池(図2)で栽培されているオニバス(図3)を確認している(中村, 2014)。このオニバスの由来について、筆者の聞き取り調査では解明できていないものの、トンボ等を研究されている高崎氏からの情報によると『2009年8月21日、オニバス一群投入されあり』(高崎保郎, 私信)との記録が高崎氏の日記に残されていることが判明した。

高崎氏より得られた情報に間違いがなければ、少なくとも2009年には修景池でオニバスが栽培され、この栽培個体と近いものが2013年にも確認された可能性が極めて高いと考えられる。



図1. 2012年に名古屋城外堀で確認したオニバス

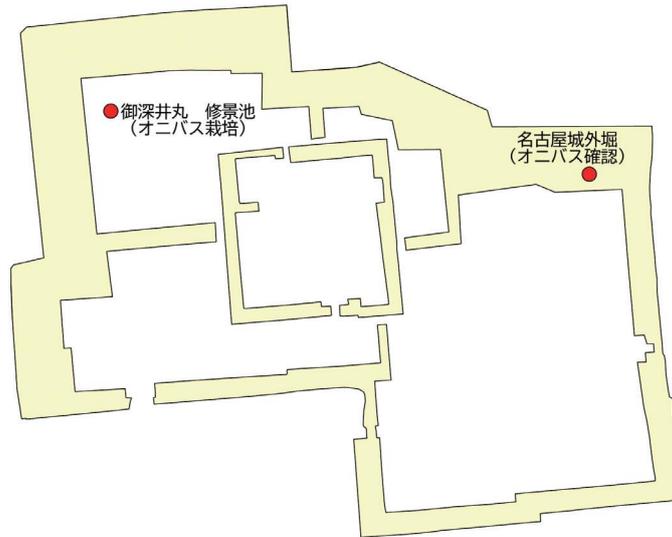


図2. 名古屋城におけるオニバス生育場所



図3. 2013年に修景池で確認したオニバス

名古屋城外堀のオニバス

現在、名古屋城外堀に生育しているオニバスが、この修景池から直接逸出した可能性は低いと考えている。しかし、現存するオニバスが、この栽培個体と同時期に他所から導入された種子に由来するものか、長きに渡る眠りから覚めた埋土種子によるものか、現在の知見で明らかにすることは難しい。

そのため、今後も情報収集に努めるとともに、生育情報などに注視していく必要があると考えている。

引用文献

- 角野康郎. 1994a. 日本水草図鑑, pp.108-111. 文一総合出版, 東京.
- 角野康郎. 1994b. オニバス既知産地一覧. 水草研究会会報, 53: 15-19.
- 角野康郎. 2014. 日本の水草. 文一総合出版, 東京. 326pp.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編). 2015. レッドデータブック日本の絶滅のおそれのある野生生物2014-8(植物I 維管束植物). ぎょうせい, 東京. 646pp.
- 名古屋市. 1993. 名古屋市の植生自然度及び自然保護に関する調査報告, p.48. 名古屋市環境保全局環境管理部環境影響評価室, 名古屋.
- 名古屋市. 2004. 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックなごや2004-植物編-. 名古屋市環境局環境都市推進部環境影響評価室, 名古屋. 324pp.
- 名古屋市. 2015. 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックなごや2015-植物編-. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課(編), 名古屋. 385pp.
- 中村肇. 2014. 名古屋市中で生育が再確認されたオニバスの記録. なごやの生物多様性, 1: 33-48.